12　金子校長辞職の衝撃

昭和14(1939)年12月**金子先生記念碑建立**

台湾人子弟

覗き込む

文昌祠日本人小学校分教場

日本人小学校**小島主任**

大正2年訴え

台　中　庁

監督不行届きで停職処分

校長 **金子政吉**

校長辞職

大正3(1914)年3月31日

留任運動

大甲公学校

衝撃

衝撃

大甲街民

昭和13(1938)年12月30日**金子校長死亡**

昭和２(1927)年　**金子先生教育会表彰祝賀**

金子校長と哲太郎はお互いに尊敬しあい、生徒たちもよくなつき、学業の成績もぐんぐん上がっていきました。保護者からの招待にも快く応じ相談に乗っていたことは、着任以来一貫した行動でした。文昌祠の公学校跡は、日本人小学校の分教場になっていましたが、台湾人子弟は昔の事が忘れられず、文昌祠に行っては、教室を覗いたり庭で遊んだりしていました。それが日本人小学校の授業の邪魔をするということで、分教場の小池秀勝主任が台中庁に訴えましたので、金子校長の監督不行き届きという事になり、大正2(1913)年に校長は退職となりました。金子校長が台湾人と仲が良すぎると密告した者がいたことも影響していたようです。全校挙げて留任運動が起こりましたが、金子校長の辞任は哲太郎をはじめ街の人に大きな衝撃を与えました。金子校長は昭和13(1938)年12月30日脳溢血で亡くなり、翌年教え子によって記念碑が建てられました。享年55歳。（茨城県出身）